

みょうじんばら

明神原遺跡

～菅原道真公雨乞いの場といわれる祭祀遺跡～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 「鳥の目」で
5. 城山神社
6. (参) 山城としての城山
7. アクセス

資料番号	S6
------	----

初版：2025.12.6



1. おすすめポイント

★菅原道真公ゆかりの祭祀遺跡

道真公が讃岐の国司として赴任されていた時、雨乞いを行い、民を救ったことが様々な形で云い伝えられています。城山神社、滝宮神社、滝宮天満宮にも是非！

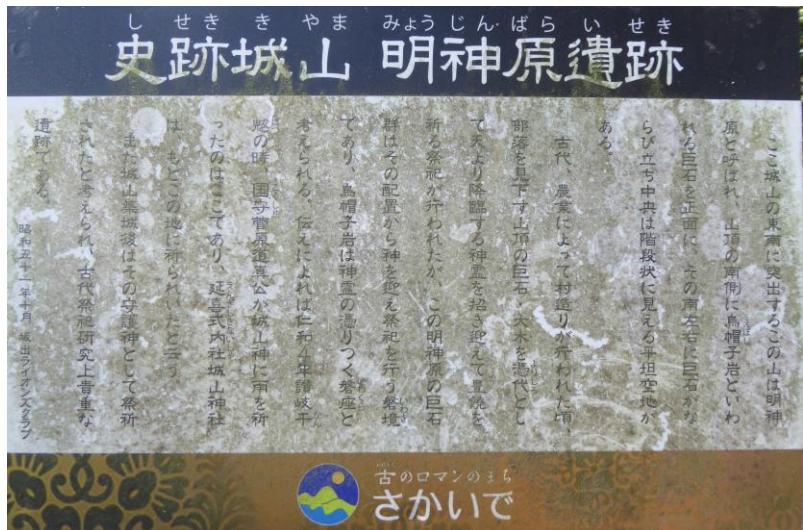
★古代山城としての痕跡も見られます

2. 説明



2-1

現地説明版



2-2

現地の説明版、やや見難いので転記させて頂きます。

史跡城山 明神原遺跡（しせきやま みょうじんばらいせき）

ここ城山の東南に突出するこの山は明神原と呼ばれ、山頂の南側に鳥帽子（えぼし）岩といわれる巨石を正面に、その南左右に巨石がならび立ち中央は階段状に見える平坦空地がある。

古代、農業によって村造りが行われた頃、部落を見下す山頂の巨石・大木を憑代（よりしろ）として天より降臨する神靈を招き迎えて豊穣を祈る祭祀が行われたが、この明神原の巨石群はその配置から神を迎える祭祀を行なう磐境（いわき）であり、鳥帽子岩は神靈の憑りつく磐座（いわくら）と考えられる。伝えによれば仁和4年讚岐干魃（かんばつ）の時、国守（こくしゅ）菅原道真公が城山神に雨を祈ったのはここであり、延喜式内社（えんぎしきないしゃ）城山神社は、もとこの地に祈られていたと云う。

また城山築城後はその守護神として祭祈されたと考えられ、古代祭祀研究上貴重な遺跡である。

昭和五十一年十月 坂出ライオンズクラブ

3. 現地写真

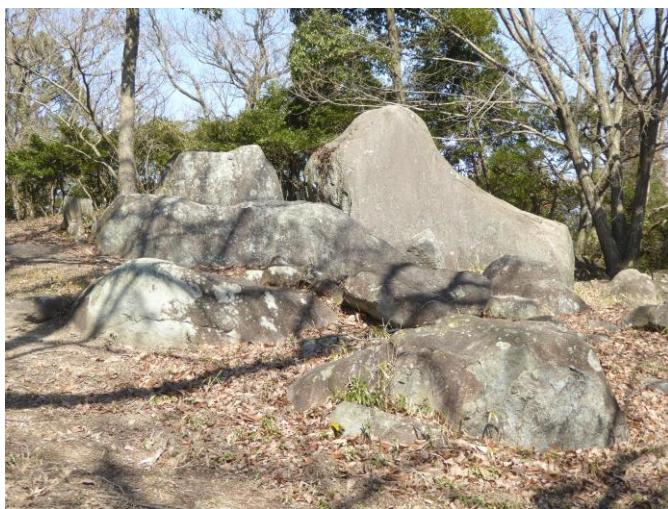
2020.2.23

3-1



3-1

南から



3-2

鳥帽子岩 割れていなければ正に富士山のような形



3-3

実際の現地では木に遮られますが、木がなければ下のように
絶好の展望地です。正に祈祷の場所として最適であることが頷けます



3-4

西を望む



3-5

南東を望む



3-6

西南西を望む

残念ながら飯野山は自山に遮られて見えません

4. 「鳥の目」で

2020.2.23



4-1

やや離れて遺跡全景を見る



4-2

遺跡の上空から岩の配列を見る

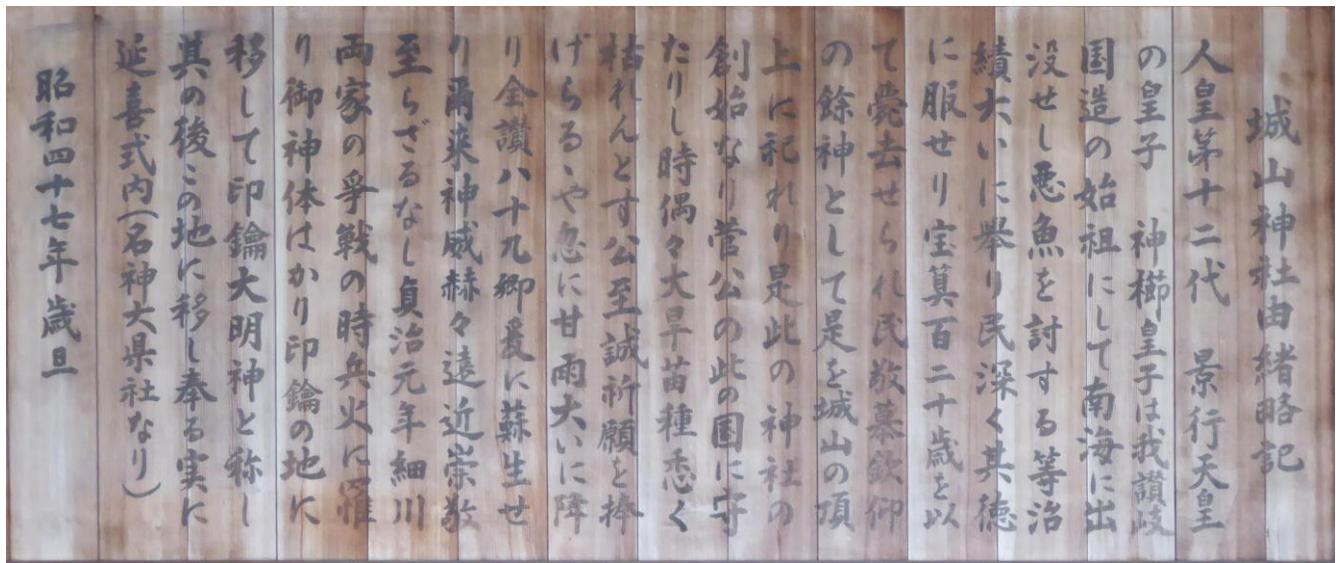
5. 城山神社



5-1



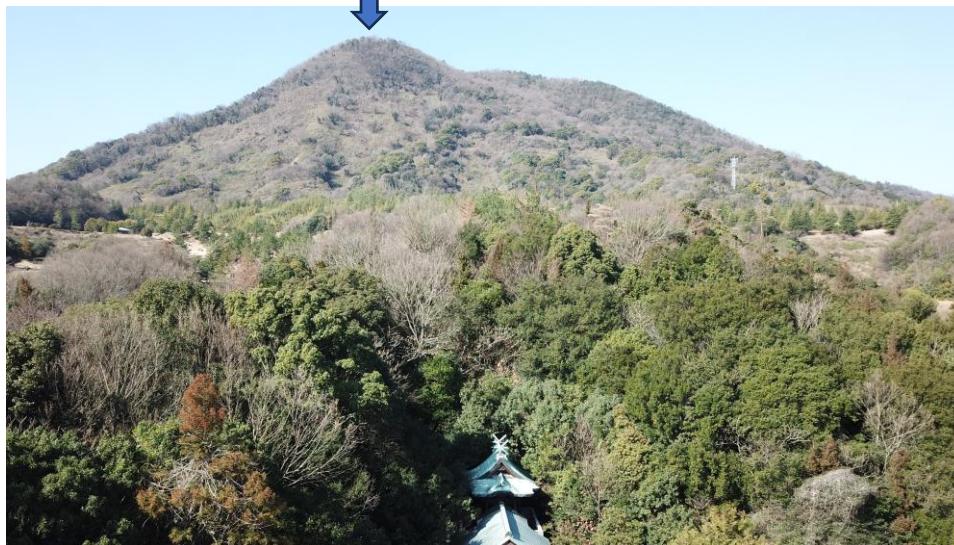
5-2



5-3

明神原遺跡

由緒説明版



5-4

城山神社は明神原遺跡を遥拝する形に建てられています。

(注) 山の頂のように見えますが突出した尾根になっているためです（7章の地図参照）。

城山神社碑

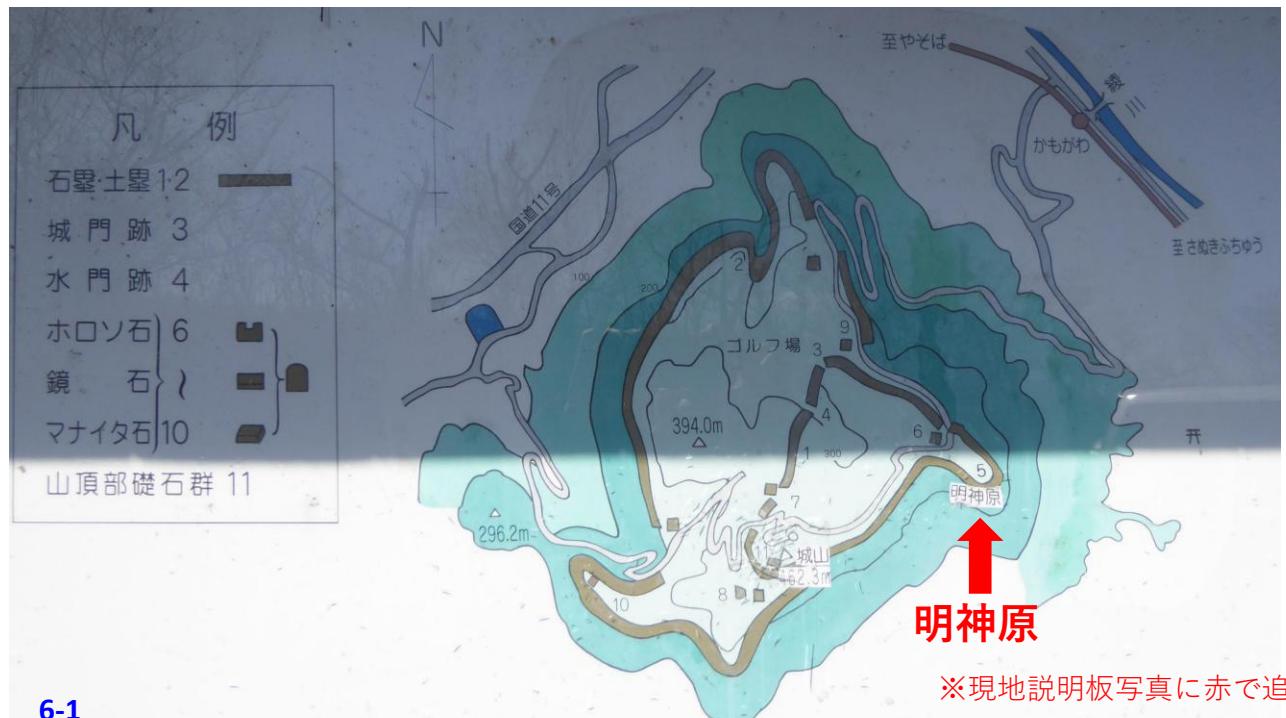
この社は延喜式内大社にして諸岐国三社の一である。伝説によれば第十二代景行天皇の二十三年神櫛王勅命を受け南海の悪虫を討たんと讃岐の国に來り櫛桜山の麓を根拠に枝戸の神大麻大歳の神に祈りこれを退治す。天皇これを賞し諸岐の国造に任す。王城山に城郭を築きこの国をよく治め給う。王仲哀天皇の八年九月十五日御歳百二十五歳にして薨す。国人その徳を奉育し城山の嶺明神ヶ原に廟を建て城山大明神神櫛別命として祀る。これ城山神社の由来なり。後清和天皇貞觀五年從五位上に叙せられ醍醐天皇延喜四年延喜式大社、明治三十六年県社となる。又仁和四年時の国司菅原道真公は大干魃に際し「城中数社茲社尤靈」と城山の神に雨を請う。神靈これに応え大雨を降る。民人大いに喜び感極り念佛を唱えながら踊り狂う。これ今に残る念佛踊りにしてこの社尊嚴の一事なり。宝として讃岐国城山神社記、菅丞祭城山神文、渡唐天神御影他数々あり。境内境外末社数社を数える。時経て天慶三年林原地友占神社正平十七年細川清氏の兵火に罹りその都度御神体（印鑰）北合の地に祀れ現在に至る。現建物は本殿明治二十六年、拝殿天明六年、社務所大正八年の再建で大正九年と昭和六十年に大修復されていちら

5-5

城山神社境内に立つ由緒の石碑

国指定重要無形民俗文化財に指定され、「風流踊」ユネスコ無形文化遺産にも登録されている滝宮（たきのみや：城山神社から南に約7km）念佛踊りの由来も記述されています。

6. (参) 山城としての城山



※現地説明板写真に赤で追記

6-1

城山は、標高462mと、この付近における最高峰の山であり、視界は極めて広く、景勝の地であります。山腹は比較的急峻であるが、山上部は緩やかに起伏しています。その中に、西北に向かつて口を開く凹地を囲んで城郭の跡があります。

城郭は、山上部を中心に二重の石壠で囲まれています。山頂部の礎石群や、内側の石壠の間に城門・水門といった城郭遺構が残っています。外郭の急峻な斜面付近には、上面が平坦となる石壠・土壠が稜線に沿つて約6kmにわたって山頂を囲んでいます。城内各所にはホロソ石・マナイタ石と呼ばれる石製加工物も確認されています。

築城の時期は詳らかでないが、七世紀後半頃に築かれた古代山城と考えられています。また、東の明神原には平安時代に、国司菅原道真が雨乞いをしたという古代祭祀の跡もあります。

城門や石壠など、よく当時の様子をとどめており、古代史上貴重な遺跡として昭和二十六年に国の史跡に指定されています。

史 跡 城 山

6-2

現地説明板

城山は吉備の鬼ノ城と同様、日本書記に記載のない山城である側面を持ちます。図のように明神原遺跡も石壠・土壠で囲まれており、実際に遺跡では磐座の外側にそれを示す石列も見られます。

7. アクセス

N
東

